

広告 VEC の活動に参加してみませんか？



VEC (Virtual Engineering Company) とは、めまぐるしく変化する市場状況や革新的技術をいち早く取り入れ、時代を先取りしていくために、ユーザーニーズ、業界リーダーのシーズメーカーの要素技術、エンジニアリング会社や SI (システム・インテグレーター) の応用技術などを融合し、それらの最新複合情報を共有化することで、それぞれのニーズに対しての最適なソリューション構築を実現する為のパートナーシップ集団です。これらを活かして日本の製造業に貢献しましょう。<VEC 憲章より>

“日本のものづくりはこれからどう変わるのか”

これまでの生産は商品を効率よく大量に作ることであった。現在は短納期、高品質、低コストが求められる。この先は、生産とは循環になるように思える。市場と対話し、回収や再利用を図り、破棄までも視野に入れなければならない。しかも、そのサイクルが早まっていくだろう。市場を見ること、環境に配慮すること。すなわち、設備や商品だけを見ていても話にならない。使う人、作る人。人と協調したものがづくりが大切である。



VEC会長
電気通信大学教授 新 誠一氏



VEC学術会員
法政大学教授 福田好朗氏

インドで低価格の大衆車が登場し、その部品工場をいくつか見る機会が昨年あった。日本の部品工場と比較すると何かが違う。しかし、ほとんど違わない。現在は、製品がグローバル化するにつれ、生産技術もグローバル化し、同一品質、同一価格で競争している。とはいえ、どこかがローカル化していなければ、工場はうまく動かない。グローバル化した製品をローカル化した仕組みがうまく支える、そんな工場が望まれるのではないだろうか。



VEC学術会員
法政大学教授 西岡靖之氏

日本の製造業の規模は、なんだかんだ言っても徐々に縮小することは間違いない。問題は、製造業が今まで蓄積してきた知識や経験がどのような形で周辺の産業に波及し、日本の競争力を維持していくことができるかだ。実際に、すでに製造業というカテゴリの中で、サービス中心のビジネスを展開している先進企業は多く、そのような大胆な発想の転換があってこそ、新しい技術のブレークスルーが生まれるのではないかと思う。



VEC学術会員
芝浦工業大学教授 水川 真氏

日本のものづくりは、高齢化、少子化を克服することが、健全な社会を維持するキーだと考える。RT (Robot Technology) の社会普及を推進する立場からは、多重投資を避け、独自技術を活かすためにも、組み合わせ技術の標準化と日本がこれまで得意としてきたすりあわせ技術の内部への適用による差別化が要となる。VEC にみられる、多彩な分野の交流の場を活用して、達成されることを期待する。

VEC：バーチャルエンジニアリングカンパニー

<http://www.vec-member.com/>

VEC ユーザー会

智恵を織り込んだものづくりを構築するために

VEC ユーザー会では、「智恵を織り込んだものづくりを構築する為」と題して、ものづくりの現場に課せられる問題を取り上げてきています。受講対象は、中堅クラスの方を対象に、難しい技術の話もできるだけ解りやすく説明し、使える技術、使えるソリューションを具体的にどう使ったら良いのかまで、理解して頂けるようにと実践現場を知る学会員の先生方にも課題解決に積極的に取り組んでいただいています。



今、いろいろな『感性力』が、失われていませんか？

「知識」があっても、「感性」が無ければ、実践面では活かされません。その「知識」と「感性」をバランスよく使えて「智恵」となるのではないでしょうか？

VECで改革の実践道具を知って、試してみることで、学ぶ。さらに磨きをかける。人が育つ。その経験を実感してみませんか？



VEC学術会員
職業能力開発総合大学校講師
武藤一夫氏

「日本のものづくりをこれからどう変えるのか」ということが今後重要である。つまり受動的ではなく、能動的な PDCA の見える化であり、いかにして顧客満足度の高い魅力的な高付加価値製品の設計の良い流れを確立するかにかかると。そのためには、自社（社員）のコアコンピタンスに相当する無形の技術や技能体系を IT を積極活用して、デジタル生産システムに取り込んで有形とし、それを利活用できるように共有化・標準化することである。



VEC学術会員
奈良先端科学技術大学院大学研究員
倉恒匡輔氏

製造業では 2007 年問題が話題になり、現場の技術伝承の重要性が高まっている。生産性や安全を重視する実際の運転では、個々の運転スキルの問題だけではなく、運転員の集合体である運転組織のマネジメントスキルが大きく関わっていることがわかっていくが、過去、これらは暗黙知として工学的な課題として取組んでこなかった。これらスキル向上の取組みは技術伝承に対する一つのソリューションを与えるものである。VEC が提唱する『見える化』活動と協調することによって産業界へ貢献したいと考えている。



協賛セミナー



研究分科会



工場見学



展示会

会員リスト一覧サイト http://www.vec-member.com/kaiin_list.htm

(2008年2月現在 166社)